

## 【9月27日放送朝礼の話】

全校のみなさん、おはようございます。

9月もあと少しで終わります。今週の金曜日からは10月が始まります。そして、前期の学校生活もあと2週間となりました。

新型コロナウイルスの状況としては、医療現場のひっ迫はまだですが、新規感染者数は少しずつ落ち着きつつあります。油断をせず、しっかりと感染防止対策をしていきましょう。

さて、今年の夏はオリンピックイヤーでした。コロナ禍で無観客での開催となりましたが、東京2020オリンピック・パラリンピックで盛り上がりました。テレビの前で観戦した人も多いと思います。今もテレビをつけると、メダリストたちが出演する番組がたくさん放映されています。

日本での開催だったこともあり、校長先生は初めてパラリンピックの開会式や様々な競技の様子、閉会式を見ました。そして、テレビでの観戦を楽しむために、その競技のルールを調べたり、選手の障害の種類や程度を調べたりしながら応援しました。

心に残った選手がたくさんいます。水泳の背泳ぎで14歳の若さでメダルを獲った山田美幸（やまだ みゆき）選手。生まれつき手がなく足の長さがちがうという障害のある彼女が、全身を上手く使って泳ぎ進む姿に感動しました。また、同じく水泳で、出場した5種目全てでメダルを獲得した鈴木孝幸（すずき たかゆき）選手の、力強い泳ぎも圧巻でした。ボッチャという種目で、個人で日本人初のメダルを取った、杉村英孝（すぎむら ひでたか）選手の緻密な戦略と正確な投球にもびっくりしました。また、自転車競技では、5年前のロードレース中に落車事故で障害を負ったことで、パラスポーツに転向し、50歳にして初出場で金メダルを手にした杉浦佳子（すぎうら けいこ）選手にも、拍手を送りました。車いすバスケットやラグビーの選手たちが、激しくぶつかり合う熱い戦いも目に焼き付いています。

中でも一番心に残ったのは、水泳の成田真由美（なりた まゆみ）選手です。成田選手は、中学生の時に病気が原因で下半身まひの障害をおって車いす生活を送ることになってしまいました。23歳から苦手だった水泳を始め、1996年のアトランタ大会から6回のパラリンピックで金メダル15個を含む20個のメダルを獲得したレジェンドです。一度は引退した彼女でしたが、51歳になった今年、7年ぶりにパラリンピックの舞台に戻ってきました。残念ながら今回はメダルを手にはできませんでした。そして、東京大会でパラリンピックへのチャレンジを終えると決めました。試合後のインタビューの中で、「障害を与えてもらって、周りの人に支えてもらって、大嫌いだった水泳が大好きになって本当に幸せでした」と答えていました。下半身が不自由になった障害さえも「与えてもらって」と言い、周りの人への感謝の気持ちを忘れない彼女は、本当のレジェンドだと思いました。

以前にもお話ししましたが、先生は、パラリンピックの選手が、「失ったものに目を向けるのではなく、今あるものを最大限に生かす姿」に感動しました。みなさんは、五体満足な体があります。それは当たり前ではないのです。まず、そのことに感謝をしましょう。そして、一人一人が自分のよさを見つけて、自分もっているものを最大限に生かして、いろいろなことにチャレンジして成長してほしいと思います。

これからのあなた方の人生を作っていくのは、お父さんやお母さんや先生ではありません。あなた自身が作っていくのです。そのことを忘れずに、苦手なことにもチャレンジして頑張りましょう！

最後に、今日から「雪丸実夢（ゆきまる みゆ）」さんが、教育実習生として、草平小学校で三週間の実習をします。担当は3年1組です。今から、ごあいさつをいただきますので、しっかりと聞いてください。

（雪丸さんのあいさつ）

三週間という短い期間ですが、皆さんと楽しく過ごし、充実した実習になると良いですね。顔を見かけたら、ぜひ声をかけてくださいね。

以上で先生のお話を終わります。一週間、元気に過ごしましょう。